

# 自立循環型住宅にむけた 昼光利用計画と照明設備計画ガイド 発刊記念セミナー 開催のご案内

一般財団法人建築環境・省エネルギー機構（東京都千代田区 理事長 村上周三）は、国土交通省国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人建築研究所及び民間企業との共同研究成果の一環として制作した、住宅の省エネルギー設計に関するガイドライン『自立循環型住宅への設計ガイドライン』の講習会サブテキスト『自立循環型住宅にむけた昼光利用計画と照明設備計画ガイド』を制作いたしました。つきましては、**発刊を記念したセミナーを2019年8月に東京で開催**いたします。

本書は、『自立循環型住宅への設計ガイドライン』の内容を要素技術毎に簡潔に解説し活用戴くシリーズの第二弾として制作したもので、太陽光を有効に利用することで照明エネルギー消費量を削減する『昼光利用計画』および『照明設備計画』を対象として取り上げています。

昼光利用技術を反映したエネルギー消費量の定量評価の考え方をはじめて示すとともに、昨今の照明器具事情を紹介し反映した省エネルギー設計法をとりまとめています。また、省エネ効果については、手計算程度の簡易な計算と読取り表による判断から、簡便に算定できるようにしています。

高い性能を持つ省エネルギー住宅を取り巻く施主のニーズは高まりつつある一方で、実住宅の設計時に適切に反映できるスキルを身に着けるためには多くの情報を必要としています。そのような現状において、本セミナーを通じて住宅の省エネルギー設計スキルを磨いて戴き、快適な住まいが広がることを期待しています。

## 【目次イメージ】

- 1 昼光利用計画と照明設備計画の概要
  - 1.1 本ガイドの位置づけ
  - 1.2 検討の全体フロー
- 2 室に要求される光環境の検討
  - 2.1 作業・行為に応じた必要な明るさの検討
  - 2.2 各室の室内仕様の検討
- 3 昼光利用計画の検討
  - 3.1 昼光利用計画のポイントと検討ステップ
  - 3.2 昼光利用による省エネルギー目標レベル
  - 3.3 立地条件の把握
  - 3.4 直接的な昼光利用手法（採光手法）の検討
  - 3.5 間接的な昼光利用手法（導光手法）の検討
  - 3.6 昼光の不足状況の把握
- 4 照明設備計画の検討
  - 4.1 照明設備計画のポイントと検討ステップ
  - 4.2 照明設備設計による省エネルギーの目標レベル
  - 4.3 照明方式の検討
  - 4.4 照明の基本設計（単位光束法）
  - 4.5 照明器具の選定と配置
  - 4.6 照明制御方法およびスイッチの位置の検討
  - 4.7 照明設備の省エネルギー手法
- 5 消費電力量の検討
  - 5.1 点灯スケジュールの作成
  - 5.2 消費電力量の算出

体裁：A4判 カラー40ページ予定

※このセミナーでは『自立循環型住宅への設計ガイドライン』シリーズの配付及び全体解説はございません。

『自立循環型住宅』とは、特殊な技術や未完成の技術を用いることなく一般的に入手できる手法・技術の組み合わせで、居住性や利便性の水準を向上させつつも、住宅の居住時のエネルギー消費を50%削減することを目指した住宅であり、その研究は国土交通省国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人建築研究所と共同で進めてきたもので、その成果は住宅事業建築主の判断基準や低炭素建築物の認定基準、省エネルギー基準に関する技術情報やプログラムにも活用されています。

